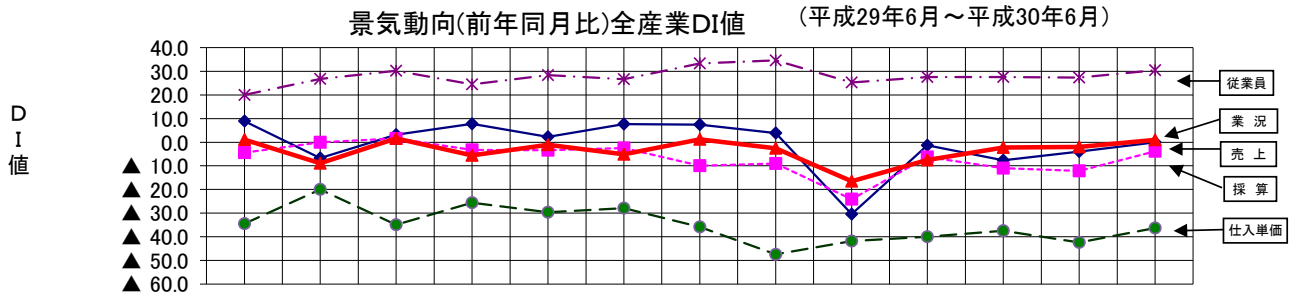


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 6月分

【6月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

5月に比べると、売上DIはマイナスからプラス方向に回復しており、業況DIはマイナスからプラスに転じた。仕入単価DIと採算DIのマイナス幅も減少している。従業員DIのプラス幅は増加した。全体的に景況感はやや改善の動きを示しているが、建設業では業況は良好との声が聞かれるものの、幅広い業種で原材料費や燃料費の上昇などが採算面に影響を及ぼしている。

先行きについては、5月に比べ、売上DI、業況DIのプラス幅は減少しているが、仕入単価DIのマイナス幅がやや減少し、採算DIのプラス幅は、ほぼ横ばい。従業員DIのプラス幅は増加した。仕入コスト増と人手不足感が続いており、先行きの改善は慎重な見通しとなっている。



	平成29年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	平成30年 6月
◆ 売上	8.9	▲ 6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0
■ 採算	▲ 4.4	0.0	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9
▲ 業況	1.1	▲ 8.9	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0
● 仕入単価	▲ 34.4	▲ 20.0	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3
☆ 従業員	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIはマイナスから0.0になり、業況DIはマイナスからプラス1.0ポイントに転じた。採算DIは8.2ポイント、仕入単価DIは6.1ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは3.1ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
5月	17.2	4.0	▲ 36.4	27.3	11.1
6月	5.9	4.9	▲ 31.4	32.4	2.0

先行きは、売上DIは11.3ポイント、業況DIは9.1ポイントプラス幅が減少した。仕入単価DIは5.0ポイントマイナス幅が減少し、採算DIは0.9ポイントプラス幅が増加した。従業員DIは5.1ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	業況は民間工事（製造メーカー）を中心に好調。
	総合建設	建設業の景況感はやや良好であるが、工事受注額が物件毎に少なくなっており、材料費（鉄製品、原油の値上）、労務費が収益を圧迫する要因となっている。
製造業	鉄工	首都圏の大型再開発は2020年以降も数年程度続くとの見方が趨勢である。
	食料品	売上は増加しているが経費も増加しているので採算面で厳しい。
卸売業	薬品	同業他社も厳しいためか価格戦略（値下げでの売込み）が依然続いている。
	日用雑貨	業況は昨年が悪かったので、今年はプラスに転じている。
小売業	家具・雑貨	業界の動向は、極めて厳しい状態となっている。
サービス業	運輸	足元では燃料高騰が気になり、先行き不安材料となる。燃料価格のコストアップは収益悪化に直結しているため、今後の動向が気になる。
	ソフトウェア	ソフトウェア開発の人手不足感はあるが、利益に貢献できるような受注は少ない。
	不動産開発	県内の空き区画が増加傾向にある。新潟県内への県外テナントのニーズが伸びていない。